

みほ倶楽部

平成17年3月



お陰で議員とし2年半余を過ごすことができました。

いざ議員になってみますとその仕事の多様さに日々追われるばかりです。行政の仕事にも今更その多いことに驚きもありますが、まずはその仕事について内容を概括的に捉え、行政総体がどういう傾向にありどんな方向に向かっているのかを把握する事が大事だと思っています。いくつかの他市状況を見て行政総体はそれぞれのようです。総体的な本市行政の状況や他市の傾向を勉強する必要があるように思います。

行政にも内容や効率の悪さや必要性に問題が無いわけではなく、未だ手をつけられない部分もあるようです。気づきながらも日常業務の狭間で先送りされてきたのかもしれませんが、国が言う構造改革もその辺に起因していることでしょう。勿論現行の行政施策の細かな内容を知ること必要でしょう。しかしその細部はそれぞれ行政執行課のなされるところであり、それは執行者のひとつは務めてもあります。確かにそれをまったく勉強しない、知らないというのは概括的に捉えようにも捉えようがないわけですが、行政に細かく介入してあたかもそれを行政通だとか勉強していると言われることについては地方議員の場合必要なのか私は疑問に思います。

国は議員が政策を立案決定し議員選出の内閣が執行しますが、地方は首長が自ら政策を掲げ公選で選ばれます。議員の中にも人によってはあたかも執行権があるように、また市民の中にも議員によって行政が大きく変わると考えている方も多いようです。確かに議員も法定数十二分の一以上がまとまれば政策を立案し過半の賛同で市政に反映することは出来ますがそれが市長の政策と異になると容易ではありません。私は行政が展開する政策の内容がまちの発展に繋がるものであり、それが社会通念や市民意識とかけ離れていないか、税金が効率よく不正なく使われているか細心の注意を払って自身の社会観や未来観を通じ課題認識を持って提言できればと考えています。※印へつづく